

やどかりの里発！地域発見マガジン

大宮見沼

# よみさんぼ

第4号



特集  
にぎわいに満ちた  
アートフルなまちを創ろう！

# にぎわいに満ちたア—

本誌前号で「民による新しい大宮のまちづくり」と題して、大宮駅東口開発に市民として積極的に提言している OEC（一般社団法人大宮駅東口協議会）の活動をお知らせした。その OEC の久世会長から「ぜひ、会ってみてください」と紹介されたのが加藤久美子さんだった。加藤さんは自身が生まれ育った大宮のまちづくりに市民参加の文化を根づかせたいと、長く活動を続けてきた。

そして今は、OEC の活動に参加しつつ、おおみやコミュニティの“わ”女性の会（通称“わ”の会）を立ち上げて活動している。新しいまちづくりとともに、大宮ならではの文化の熟成を目指す加藤さんたちの活動をご紹介します。



## 加藤久美子さん

（おおみやコミュニティの“わ”女性の会代表）

### 音楽でまちのにぎわいを！

“わ”の会の代表である加藤久美子さんは、大宮小学校の PTA や公民館活動、生協の役員などの活動を通して、大宮で生活する女性たちと地道な活動を続けている。阪神淡路大震災の時は生協活動の中で1,000万円に及ぶカンパを集める仕組み作りや現地への支援、生涯学習総合センター公募事業で実施した「もっと緑と水と風」の環境学習、ゴミ袋を透明化する行政方針に市民提案して実現した「半透明ゴミ袋」の導入など、その時々地域の人たちの声に合わせてたゆまない社会貢献活動を続けてきた。

そして2004（平成16）年、せせらぎコンサートと出会ったのだ。せせらぎコンサートは、桜木中学校の吹奏楽部がまちなかで演奏するコンサートとして、1993（平成5）年から桜木中学校と桜木公民館の共催で始まった。公民館と学校

# トフルなまちを創ろう！

が協力し、まちなかコンサートを企画することは当時としては画期的だったが、一中学校と公民館の二者共催には限界もあった。そして、2004（平成16）年の100回記念を契機に、更なる発展に向けて、市民活動で活躍していた加藤さんはじめ広く市民に開かれた実行委員会形式となった。そしてせせらぎコンサート市民企画委員会と生涯学習総合センターが活動を引継ぐ形式となり、より市民全体を意識した「音楽でまちににぎわいを！」をコンセプトに掲げ再出発する。

こうして次第にさいたま市内の小中学校のブラスバンドや吹奏楽部はじめさまざまな音楽愛好団体が加わり、演奏するようになっていった。2012（平成24）年12月8日には135回せせらぎコンサートが開催され、毎回1,000人以上を集客するコンサートへと成長している。これまで公共施設のホールなどで開催されてきたアマチュア音楽団体の演奏会を、市民が支え、育て、まちのにぎわいの中へと発展させた加藤久美子さんらの活動は、新しい文化とまちづくりへの、確かな可能性を感じさせる。

## アートフルゆめ（希望）まつりへの飛躍

この市民による音楽を通じてのまちづくりの理念は、毎年4月に大宮駅東口





を拠点に盛大に行われる、アートフルゆめ（希望）まつりへと結実していった。アートフルゆめ（希望）まつりでは、音楽を演奏する人も、聞くのが好きな人も多くの市民が参加して楽しめるお祭りとして、音楽・アートとまちのにぎわいが互いに高めあう循環を創ろうという、せせらぎコンサートのコンセプトがベースとなって企画されている。会長はOECの久世さんで、文化とまちづくりは音楽・アートという素敵な媒体を得て、文化が育まれ、まちづくりにつながり見事なコラボレーションが生まれている。そこではジャンル、年代、立場を超えたお祭りとして、まちのあちこちで音楽が演奏され、“まちのにぎわいの中にある音楽やアート”を楽しむことができる。



そして加藤久美子さんは、2010（平成22）年から4年間、大宮区区民会議（さいたま市の政令指定都市移行に伴い誕生した、公募委員や諸団体による諮問機関。市民と行政をつなぐ役割を担っている）の会長をつとめ、区民フォーラムを開催するなど、今や市民によるまちづくりを推進させるキーパーソンとなっている。

## 百祭復興プロジェクト

“わ”の会では毎月例会を開き、勉強会を行っている。会のメンバーは加藤久美子さんを中心として、お子さんが大宮小学校に通っていた時代からのお母さん友だち、また現役大宮小学校PTAの若いお母さんたちも加わって、終始和やかな雰囲気が進められる。2012（平成24）年12月定例会の講師は、加藤久美子さんのご夫君、加藤種男さんのお話だった。

加藤種男さんはアサヒビール芸術文化財団顧問として、企業による社会貢献を推進し、日本の文化のあり方を市民の側から変えようとNPOの環境整備にも取り組んでいる。平成20年度には芸術選奨を受賞され、現在は公益社団法人



企業メセナ協議会の専務理事として、日本中、世界中を飛び回って、市民による文化芸術活動への支援を展開している。

加藤さんは東日本大震災への支援で「百祭復興プロジェクト」を立ち上げ、東北のお祭りの復興を支援している。なぜお祭りなのか、そこには芸術に対する深い洞察と時代のうねりがあるようだ。

従来アートは、1人の天才が創った絵画やアートを大勢の人が鑑賞するというものだったが、アートに対する人々の意識は時代的、革新的変化が起きていて、皆で創り、参加して楽しむように変化してきている。そういう意味でお祭りはアートであり、唯一想定される見学者である神様のために、生活の祈りを込めて古くから引き継がれてきた文化として、生活に根づいている。だからお祭りは復興に必ず必要で、人はアートなしでは生きていけないと、加藤さんは言う。

翻って私たちやどかりの里が活動している、大宮、見沼地域に思いを馳せれば、そこには見沼たんぼを守る人々や、加藤久美子さん、久世さんら自分の生活するまちの将来を真剣に考え行動している方々がいる。そんな方々と、やどかりの里で働くメンバーや職員もいっしょに、アートフルゆめ（希望）まつりにも参加して、自分たちが活動するまちの活動や文化に貢献していこう、と思った。

大宮は東日本の玄関口としての巨大ターミナルの喧騒と、市民の祈りの場としての氷川神社が隣接している。そして、そこに加藤さんや久世さんのように、地元で暮らし、文化を育み、将来ビジョンを考えるとという市民自らが活動することを厭わない人たちがいることが、何よりの財産なのだ。東口の再開発というビッグプロジェクトと、アートフルな文化はどのように発展し、成熟していけるのか、追いかけていきたい。

（記 野田 妙子）

## インフォメーション

---

### 音とアートでつながる 希望（ゆめ）のまち「おおみや」

2013年4月21日（日）アートフルゆめ（希望）まつり開催。 <http://www.aymo.jp/index.html>  
11:30～12:00 大宮区役所前にてやどかりの里も参加します！

# よみさんぽ日誌

ここ見沼の地には、地域で顔の見えるつながりを大切に活動が続けておられる方たちがいます。農業者、そして高齢期の暮らしを支える視点からお話を伺いました。

## 農あるまちづくりを目指して

丸山 文隆さん(オーガニック・ハーベスト丸山)

江戸時代から続く、広大な農地「見沼田圃」。今では、農業を営む人、森や水辺の環境を守る人、スポーツや文化・歴史にいそしむ人々など、さまざまな活動がおりなす、世界最大級の都市内緑地だ。

この見沼田圃で、不耕作地を復元し、大規模農業を営む「オーガニック・ハーベスト丸山」の丸山文隆さん。

ご実家も農業を営む丸山さんは、明治大学の農学部を卒業。市のみどり推進課勤務時代には「さいたま市緑の基本計画」作成に従事した。そして6年程前に「農あるまちづくり」の実現を目指し役所を退職、見沼区蓮沼にて本格的に農業を開始した。「大規模化していかないとこれからの農業は難しい」そう語る丸山さんは、今では5人の従業員とともに10ヘクタールもの農地で作物を育て、百貨店、スーパー、ホテル、レストランなどから注文が殺到するほど市内では有名な農業経営者だ。この地で農業を産業として確立しているお1人である。また「地産地消で地域経済を活性化し、コミュニティの発展を図ることがコンセプト」という丸山さん。同じ農家出身の奥様とともに、子どもたちが土に触れ合う機会をつくりたいと、収穫体験も行っている。

また「この蓮沼の気候を安定させている自負がある」と語るように、生産緑地である丸山さんの畑は、快適な酸素の供給、適度な湿度を保つなど環境面での貢献も大きい。雄大な見沼の地の恩恵を感謝しつつ、農家としての誇りを胸に、農業に携わる熱意ある姿が印象的だった。

---

オーガニック・ハーベスト丸山

TEL 048-687-0140

# 地域で支え合う仕組みをつくりたい

嘉成 勝子さん (みぬまで暮らす会 代表)

長沼 和子さん (みぬまで暮らす会 世話人)

東武野田線大和田駅から線路沿いの通りを歩くと、「共助の家 みぬまハウス・大和田」がある。2010（平成22）年に設立されたNPO法人「みぬまで暮らす会」の活動場所だ。そこで嘉成勝子さん、長沼和子さんにお話を伺った。

もともと東京生まれの嘉成さんと長沼さん。見沼の地に越して約20年が経つ。お2人は今から5年程前、「さいたま市見沼区介護・福祉マップ」作成にあたり、高齢者施設や介護保険サービス事業所を訪問し、実態調査を行った。しかし、介護保険法改正で、送迎サービスの停止や事業所の閉鎖等の事態に直面。年を重ねていった時に自分たちはここで暮らしていけるのか……そんな不安が襲ったという。そこで「年をとっても安心して暮らせる地域の実現」を目指し、長沼さんの事務所を開放。毎回ゲストを呼び、高齢期の暮らしに必要な話を聞こうと「ランチの会」を実施した。大和田に拠点を移してからは、コミュニティカフェへと様相を変え、周知するために何千枚ものチラシをポスティングしながら活動を続けてきた。今では野菜市や手芸・絵手紙などのくらす活動、各種講座など催しも行われている。

また介護保険だけでは支えきれない高齢者の暮らしを手助けする、生活支援サービスも実施している。会員向けのこのサービスには、地域で共助、互助の仕組みをつくりたいという強い思いが込められている。

現行制度では支えきれない人たちの存在。しかし、地域で暮らさざるを得ない現状から「地域で互いに助け合いながら生きる仕組み」をつくろうと始まった活動。地域で暮らす人たちの、幸せを願う思いが根底にあった。（記 萩崎 千鶴）

みぬまハウス・大和田

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町 2-1288-4

TEL/FAX 048-796-0295



## やどかりの里の仲間たち・3

信頼できる仲間たちと仕事ができる「今」に感謝。

中林 能昭さん (34歳)

情報館で働き始め1年になります。以前はIT企業でパソコンやサーバーの障害対応業務をしていましたが、人間関係のトラブルにより体調を崩し入院、失職。就職活動中、通院先の病院からやどかりの里を紹介されました。仕事がしたい！の一心で情報館に来ましたが、私は環境の変化に弱く、対人関係を築くのも苦手です。周囲に馴染めず、幾度も辞めようと考えました。しかし、それを救ってくれたのも人間関係でした。同僚たちの障がいを抱えながら仕事を続ける苦労話などに共感したり、彼らの親切的な姿に数多く励まされ、支えられてきました。そのお陰で組版業務から編集会議への参加等、仕事の幅も広がりました。理想の仕事をしながらの「信頼できる仲間づくり」が実践できています。頼もしい同僚たちに感謝し、ともに前を向き頑張っています。

私にとっての援護寮

野沢 俊明さん (42歳)

やどかりの里援護寮に来てから1年半になります。病院の担当者に紹介され、最初は退院の道が他になかったのですが、仕方なしに来たというかたちでした。でも、スタッフにも恵まれ、楽しい毎日を送るようになりました。みんなでバーベキューをしたりカラオケに行ったりと、よく遊んだことが思い出に残っています。援護寮は生活自立訓練施設なので、遊ぶだけではなく、朝食づくり等で料理も覚えました。今では簡単な料理が多少できるようになりました。現在は、一般就労を目指して、援護寮に入所しながらエンジュ（障害のある人が働く宅配弁当屋）で週に5日間働いています。職員の方が丁寧に仕事を教えてくれるので、楽しく働いています。最初は仕方がないという気持ちで来た援護寮も、今では来て良かったと思います。



# 参道マップ

～氷川参道をぶらり散策～



旧中山道から武蔵一宮氷川神社までをつなぐ氷川参道。このコーナーでは氷川参道を散策して出会った大宮の魅力をご紹介します。

今回は氷川神社で開催された十日市<sup>とおかまち</sup>を散策しました。日本でも指折りの古社であり、大宮の地名の由来ともなった氷川神社。その佇まいに悠久の歴史を感じます。日中でもかなりの人出ですが、十日市の醍醐味は夜。身動きがとれないほどの人混みです。



参道には縁起物の熊手や神棚などを売る店がびっしりと並びます。福や徳をかき集める、鶯づかむという意味があるのだそうです。私たちも小さい熊手を購入。威勢よく手締めをしていただきました。熊手は大小さまざまなものが売られていて、年々大きい熊手にしていくものなのだそう。縁起物なんですね。

参道に立ち並ぶ露店の数々……右の写真は生きているクチボソです。煮付けてお正月のおせちにするんだそうです。ピチピチとイキのいいお魚たちが、同じ方向を向いて泳いでいるのが可愛らしかったです。



右下の写真では鯉をさばいています。東北出身の私にとっては初めての光景……ものすごい人ばかりでした。



開発が進み都会の雰囲気を感じさせる大宮駅周辺。でも少し足をのばせば、その土地に暮らす人々の息づかいが聞こえてきました。(記 堤 若菜)

# あなたの街のやどかりさん

## すてあーず

### お客さまとのつながりを大切に

#### ドリームカンパニーとアトリエなす花

やどかりの里で毎年開催している大バザーの際、やどかりの里を応援してくださる近隣のみならず、全国の皆さんからご寄付いただく品物を無駄にしないようにと、1992(平成4)年に見沼区南中野の地に店舗を構え、リサイクルショップ「ドリームカンパニー」が誕生しました。アトリエなす花は、1993(平成5)年にドリームカンパニーの作業の1つとして行っていた手づくり品の製作が独立し、活動を開始。革工芸を中心に、お客さまに喜んでもらえる、質の良い製品づくりをモットーに活動していました。

ドリームカンパニーとアトリエなす花が現在地(見沼区南中野)に移転したのが、2005(平成17)年夏。そして、2012(平成24)年1月、2事業所を統合し、「すてあーず」が誕生しました。

#### 「すてあーず」って？

「すてあーず」は、JR大宮駅東口からのバス通りに面した黄色の2階建ての建物、「イエローハウス」で営業しています。「すてあーず」という名には、私たちの思いがたくさん込められています。すてあーずは英語の「stair」(階段)からつけました。1つ目の意味は、1階のリサイクルショップ「ドリームカンパニー」と2階の手づくり工房「アトリエなす花」という2つの場所が階段でつながっているように、2か所をしっかりとつなぎたいという思い。2つ目は、階段を上るように、一步一步目標に向かって進めるようにという思い。そして3つ目は、私たちと地域のお客さまがしっかりとつながるようにという思いを込めました。すてあーずの名前負けしないための歩みは、もちろん現在進行中です！

# 第4回

すてあーずは、リサイクルショップを運営するドリームカンパニーと、手づくり品の製作を行うアトリエなす花という2つの小規模作業所が統合し、2012年1月に新たなスタートを切りました。1階でリサイクルショップ、2階でエプロン・白衣などの布製品や革小物のオーダーメイド製作を行っています。

## お客さまとの縁を大切に

すてあーずは、ご家庭で不用なものをご寄付いただいたり、ご来店いただいたりと地域の皆さんに支えられながら活動してきました。支えられるばかりでなく、私たちが皆さんのお役に立てるようなお店になりたい……という思いで活動していますが、まだまだ力及ばず、奮闘中です。でも、「掘り出し物がないかと思って、なんとなく立ち寄っちゃうのよね」「お店の人とおしゃべりが楽しみ」「ここは私のリフレッシュ場所なの」……そんなお客さまの声に元気をいただいています。おかげさまで、常連のお客さまも増えています。

2階の工房では、エプロン・白衣といったユニフォーム製作だけでなく、通園・通学バッグなどの布製品や名刺入れ、小銭入れなどの革製品のオーダーメイド製作も行っています。年が明けたら、いよいよ進学・進級シーズン突入です。ぜひ、ご活用ください！

1人1人のお客さまに丁寧に対応させていただきながら、お客さまとの縁、つながりを大切にすることが、今、すてあーずにできることだと思っています。皆様のご来店、心よりお待ちしております。 (記 宗野 文)

ヨークマート大宮南中野店のすぐ近く、JA さいたま片柳店の右隣です。

すてあーず

〒337-0042

さいたま市見沼区南中野 844-22 イエローハウス

Tel 048-688-8223

通園・通学グッズ (縫製料のみの場合) 400円～  
オーダーメイドエプロンも2,000円から承ります！詳しくは上記までご連絡ください。



# 「教養」「教育」ならぬ、 きょうよう きょういく 「今日用」「今日行」を大切に



後藤富美子さん

## やどかりの里との縁

やどかりの里との出会いは、かれこれ30年くらい前。私が自動車教習所に通っている時、やどかりの里のバザーのチラシを見たのがきっかけでした。まだ子どもが小さかったので、子どもを遊ばせるつもりでバザーに足を運ぶようになりました。その後、出入りのクリーニング屋さんが「不用品はやどかりの里のバザーに持って行ってあげるよ」と声をかけてくれて、寄付をしたこともありました。寄付といっても、家の中の整理ができるなあという感覚でしたけれど……。近くにドリームカンパニーができてからは、お客さんとして買い物に行っていました。

3年くらい前、ドリームカンパニーでお客さんを対象にやっていたアンケートに答えたら、後日職員の人から「作業を手伝ってくれませんか？」

と連絡がありました。アンケート項目の「得意なことは何か」という問いに、革工芸と答えていたのが目に留まったようです。今は革工芸を中心に、ボランティアとしてお手伝いしています。

私自身は、見沼ファーム21や青少年育成のお手伝いをするクラブ、映画や演劇の鑑賞会などに参加しているのですが、そこで出会った人もやどかりの里に関わっていたりして、なんとなく縁を感じています。

## やどかりの里に関わって

正直、やどかりの里が何をしているところなのか、どんな人が来ているのかなど、ほとんど知りませんでした。長くこの街で暮らしていますが、知る機会がありませんでした。すてあーずに関わるようになってから、やどかりの里が精神障害のある人たちの支援をしていて、お弁当屋

さんやおまんじゅう屋さんなど、いろいろな事業をやっていることを知りました。最初は、障害のある人たちにどう話しかけたらいいのか、傷つけてしまわないかといった不安がありました。でも、実際に付き合ってみて、特別な人ではなく、普通に付き合っていけばいいんだなと思えるようになりました。やどかりの里が、もっと地域に目や足を向けて活動して、やどかりの里のこと、障害のある人のことなど、多くの人に知ってもらって、地域とのいい循環が生まれたらいいなあと思います。

### 私が大切にしていること

私は「人生で経験することは、何1つ無駄になることはない」と思っています。結婚してから習っていた革工芸も、今何10年もの時を経て、すてあーずで活かされています。自分の経験がお役に立てることを、とても幸せに感じています。仕事を辞めたことをきっかけに、いろいろな地域活動に参加するようになり、すてあーずでも「活動的ですね」と言われています。忙しくても、気持ちや考えを1つ1つ切り替えて行動することを意識しながら、今という時間を大切にしています。年を重ねても「教養」「教育」は大切ですが、私にとっては、

今日する用事「今日用」と今日行くところ「今日行」があることが元気の源です。1つ1つの活動を長く続けたと思うからこそ、足場は歩いて通えるところというのが、ポイントの1つ。これからも、今関わっている人や活動を大切にしながら、社会と接点を持てる「今日用」「今日行」を楽しんでいきたいと思っています。

### すてあーずからひと言！

リサイクルショップすてあーずの2階は、工房になっています。後藤さんはそこに、週1日くらいのペースで来てくださっています。地域との接点をたくさん持ち、毎日を充実して過ごしている後藤さん、ほんとうに素敵なお方です。後藤さんに革工芸の基本を改めて教えてもらいながら、製品の質を上げているすてあーず。革小物のオーダーメイド、是非ご相談ください！（記 宗野 文）

### 革製品大好評発売中！

カードケース1,000円～、  
小銭入れ1,000円～、  
革しおり400円～、  
動物ストラップ400円～





あなたの街のイベントやお祭りに呼んでください！出張します！

<http://www.yadokarinosato.org/>

社団法人 やどかりの里 (さいたま市見沼区染谷 11774 やどかり情報館)  
 Phone. 048-680-1893 Fax. 048-680-1894  
 e-mail: print@yadokarinosato.org

労働保険・社会保険の手続き、ご相談は  
**浅沼社会保険労務士事務所**

社会保険労務士 浅沼 智

〒353-0001 志木市上宗岡 4-26-15  
 電話 048-487-6161 FAX 048-487-6168  
 E-mail: skiki-asanuma@sand.ocn.ne.jp



**昼食 1食 550円**

月～金、1食からお届けします！

※おかげや刻み食も対応します  
 ※ご希望の曜日にお届けします

**エンジュ 0686-7875**

<受付> 月～金 (祝日を除く) 8:30～18:00

**喫茶  
 味ズ**



営業時間 月～土 10.00-17.00  
 さいたま市大宮区天沼町 1-136-2

募集

- ☆作品展示したい方
- ☆雑貨販売したい方
- ☆貸しスペースあります

詳細は ☎ 048-657-0202

天沼1丁目  
 大宮駅  
 喫茶ルポース  
 スーパーバリュー  
 ○大宮天沼店

埼玉県産小麦粉を使用 **手づくりまんじゅう**

**まごころ**

さいたま市中央区本町東 5-9-7  
 Tel. 048-857-2783 Fax. 048-857-2769



こころの悩み、ちょっと話してみませんか…？



お住まいの区の障害者生活支援センターまでご連絡下さい



見沼区障害者生活支援センターやどかり 電話；048-682-1101  
大宮区障害者生活支援センターやどかり 電話；048-795-4720  
浦和区障害者生活支援センターやどかり 電話；048-793-6373

～精神障害のある方、そのご家族の地域の相談機関です～



公益社団法人 やどかりの里

**すてあーず**

南中野 844-22 イエローハウス  
Tel/688-8223

布製品をオーダーメイド製作いたします！

お気軽にご相談ください。

1F リサイクルショップ「すてあーず」営業中！

Tel/687-4483 (直)



自分史や自伝を

**本**として残しませんか？

出版のプロが安心と信頼の技術を提供・サポートします

**やどかり出版** さいたま市見沼区染谷 1177-4

Tel.048-680-1891 Fax.048-680-1894

新刊案内

やどかりブックレット・障害者からのメッセージ・21

**私が選んだ働き方**

企業就労した人たちの経験

やどかりブックレット編集委員会 編

阪井 宏一 野口 智子 他 著

2013年1月

定価 840円

やどかり出版



事務用封筒・名刺・軽オフ印刷のことなら

あなたの街の印刷屋さん

**やどかり印刷**

Tel 048-680-1893 Fax 048-680-1894

さいたま市見沼区染谷 1177-4

# 大宮見沼 よみさんぽ

## 作者紹介

**表紙絵 大塚幸子さん** さいたま市大宮区三橋在住。1992年陶芸倶楽部開催、2009年絵手紙倶楽部開催、現在に至る。表紙絵のことは『寒くても 一所懸命時季の花』厳寒に健気に咲いている感動の花シクラメンに毎年元気をいただいています。どなた様も元気になっていただきたいと願いながら描きました。

**題字 イラスト 宗野文さん** (1975年生まれ) 学生時代から書道が大好きで、子育て中の今我が子とともに習字に再挑戦中。やどかりの里の作業所「すてあーず」所長。見沼区南中丸在住。

大宮見沼よみさんぽ 第4号

発行 2013年1月(冬号)

編集 「大宮見沼よみさんぽ」編集委員会  
〒337-0026 さいたま市見沼区染谷  
1177-4

Tel 048-680-1891

Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<http://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里  
理事長 土橋敏孝

印刷所 やどかり印刷

定価 100円



## 施設建設へご支援・ご寄附のお願い

やどかりの里は、今年度「やどかりの里援護寮」の居室増室のための改修と「食事サービスセンターエングジュ」の移転・新築事業に取り組んでいます。現在、建設費捻出のために広く寄附の呼びかけを行っています。ご支援についてご検討いただけましたら幸いです。

1口 3,000円・5,000円・10,000円(複数口大歓迎です)

郵便振替 00160-5-129879

加入者名:公益社団法人やどかりの里

ご協力いただける個人の方、事業所を広く募っております。

(お問合わせ) やどかりの里法人事務局 電話 048-686-0494 FAX 048-686-9812

### やどかりの里援護寮は

精神障害のある人たちの1人暮らしへの準備を支えています。長期入院を余儀なくされてきた人や親元から離れて1人暮らしを始めようという人、また、休息など一時的に利用することもできます。こうした場合はさいたま市内で1か所(やどかりの里援護寮)しかなく、居室が足りない状況です。

### エングジュは

精神障害のある人たちが動く福祉施設です。仕事内容はお年寄りや身体の不自由な人などへの弁当宅配サービスで、さいたま市在宅高齢者等宅配食事サービス事業も受託しています。エングジュを新築し、障害のある人たちの動く場を広げていくこととともに、もっと多くの人たちの食を支えていきたいと計画しています。(2012年7月竣工しました)